

愛知県感染症情報

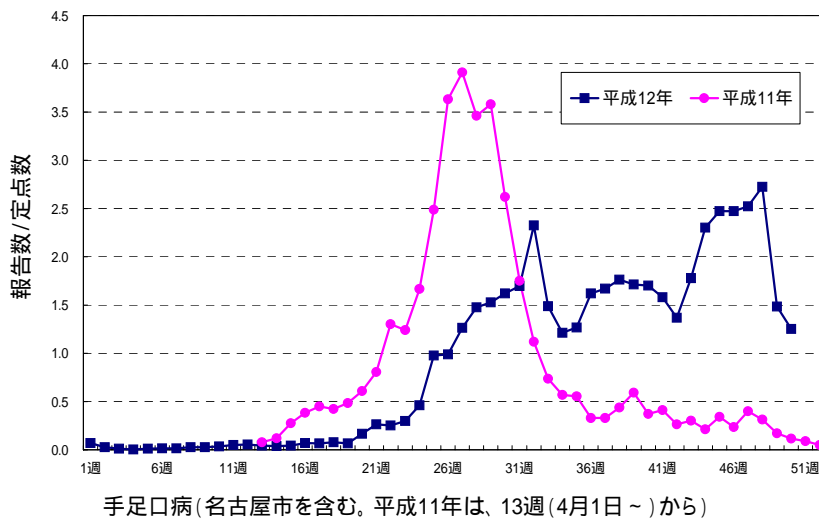
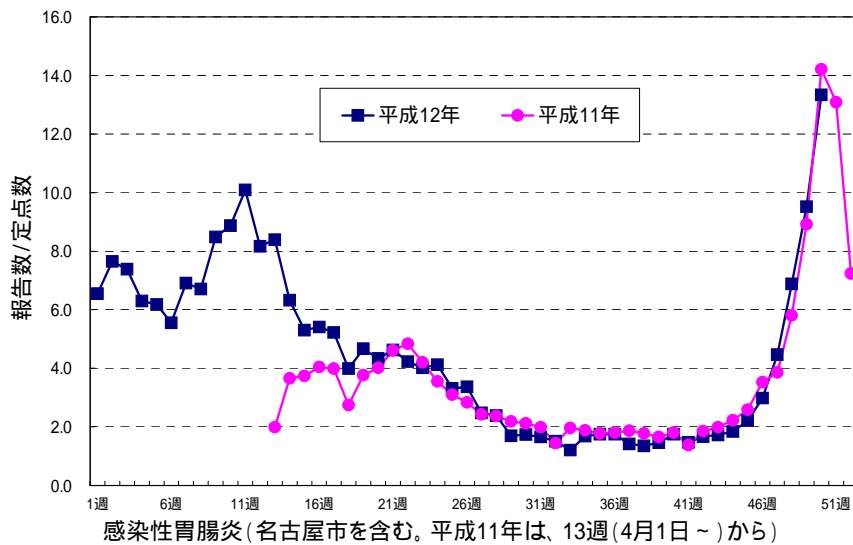
平成 12 年第 50 週 (12 月第 2 週)

(コメント)

水痘、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎はいずれも流行中です。手足口病は、ピークを過ぎたようです。

インフルエンザは、散発しています。インフルエンザについての詳しい説明については愛知県衛生研究所のホームページ

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>) をご覧ください。



(先生方からのコメント)

- 尾張西部地区
 - ・ 年長児の溶連菌感染症が目立ちました。
 - ・ 感染性胃腸炎急増

ディレクティジェン Flua (+) 1 歳男、2 歳女、各々の兄弟も高熱ありインフルエンザと思われました。

(一宮市 あさのこどもクリニック)

- ・ 手足口病の 3 歳女兒、髄膜炎を合併
(一宮市 ささい小児科)
- ・ 病原性大腸菌感染者 4 名 (O-1 2 歳男、O-18 4 歳男、10 歳女 O-111 3 歳男)

インフルエンザが 2 ~ 6 歳を中心に増加してきました。総数 11 名水痘、流行耳下腺炎も増えてきました。

(尾西市 城後小児科)

- ・ 急性胃腸炎多発するもロタ (ウイルス) は少ない。7 日間続く Fever (熱) あるも Flua (-)
(岩倉市 なかよしこどもクリニック)
- ・ 感染性胃腸炎が多く見られています。水痘、手足口病、流行性耳下腺炎の流行続いています。ヘルペス口内炎も 3 名ありました。
(江南市 みやくちこどもクリニック)
- ・ 感染性腸炎、手足口病が流行中 肺炎も多い。
(新川町 三輪医院)

● 尾張東部地区

- ・ 乳幼児で嘔吐下痢症が急増しました (ロタ陽性は多くありません)。水痘、マイコプラズマ肺炎も多くみられます。名古屋在校の中学生で A 型インフルエンザ 1 例 (12 歳男)。
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
- ・ 乳幼児の中耳炎、気管支炎多くみられます。細気管支炎での入院例もありました。今週は嘔吐を主訴に来院する症例が目立ちました。伝染性紅斑の家族内感染例あり (母親から子供、母親は関節炎合併あり)。
(尾張旭市 佐伯小児科医院)
- ・ 兄の帯状疱疹から感染の水痘
(半田市 医療法人林医院)
- ・ 咽頭結膜熱で 39 ~ 40 5 日間の発熱の症例がありました。他に高熱が 39 前後 5 日間続く症例が多く見られました。インフルエンザ A 抗原は (-) でした。
(春日井市 かちがわ北病院)
- ・ 感冒嘔吐症多し。ウイルス熱様脳炎にて発熱 8 ~ 9 度つづく。
(小牧市 小牧市民病院小児科)

- ・ 水痘症、手足口も多い。感染性胃腸炎も多くなりました。
(小牧市 鈴木小児科)
- ・ 流行性嘔吐症が大流行です。
(小牧市 志水こどもクリニック)
- ・ 嘔吐下痢症が小学生まで広がりました。
(東海市 小児科ハヤカワ医院)
- 西三河地区
 - ・ 溶連菌感染症 (兄弟で感染)
(豊田市 やふそ小児科)
 - ・ 病原性大腸菌 O-164 12歳男、O-1 2名(1歳男、3歳男)
(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)
 - ・ カンピロバクターと病原性大腸菌 VT(-) 2ヶ月男
(岡崎市 医療法人深田小児科)
 - ・ マイコプラズマ肺炎 8歳男
病原性大腸菌 O-1 VT(-) 11歳女
(岡崎市 花田こどもクリニック)
 - ・ 病原性大腸菌 O-1(+) VT1・VT2(-) 9ヶ月男
(岡崎市 にいのみ小児科)
 - ・ 病原性大腸菌 O-1 1ヶ月男
(岡崎市 医療法人川島小児科水野医院)
 - ・ 水痘増加傾向。嘔吐を主症状とした幼児、学童の胃腸炎続いている。
(碧南市 永井小児クリニック)
 - ・ 溶血性連鎖球菌感染症のうち 3名は三つ子です。嘔吐下痢が続いています。
(西尾市 やすい小児科)
 - ・ 依然として感染性胃腸炎が目立ちます。
(西尾市 山岸クリニック)
 - ・ マイコプラズマ肺炎 2名(4歳男、5歳男)
(三好町 三好町立三好病院)
- 東三河地区
 - ・ 家族で伝染性紅斑になり、母親(46歳)は、肝機能(ALP:アルカリホスファターゼ)が軽度上昇
熱性ケイレン 1歳男児。FluAテスト(-)
溶連菌感染症児が多くなりました。
(豊橋市 こどもの国大谷小児科)

- ・ 嘔吐中心の胃腸炎多発
(蒲郡市 蒲郡市民病院)
- ・ 12歳水痘3名 同じクラス内での感染と思います。
(蒲郡市 医療法人鈴木小児科医院)
- ・ 水痘、ムンプスが減少していますが、まだ、見られます。
(田原町 かわせ小児科)

(1~3類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌感染症患者1名。

- ・ 瀬戸保健所から報告の29歳女。12/7発病、12/7初診、12/13診定。
菌型は、0-157 VT2(+)

腸管出血性大腸菌保有者2名。

- ・ 知多保健所から報告の18歳女。12/13初診、12/13診定。菌型は、
0-157 VT2(+)
- ・ 安城保健所から報告の22歳女。12/13初診、12/16診定。菌型は、
0-157 VT1・2(+)

(全数把握の4類感染症の発生状況)

ツツガムシ病患者2名

クロイツフェルト・ヤコブ病患者1名

48週(11月27日~12月3日)の4類感染症の全国状況

水痘の定点当たり報告数が例年に比べかなり多くなっており、山形県で定点当たり報告数5.5、青森県で5.4、新潟県で4.9、福井県で4.5、長野県で4.4の報告がある。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は例年の同時期に比べやや多くなっている。麻疹は例年の同時期と比べ定点当たり報告数がかなり多くなっており、奈良県、高知県、大分県、沖縄県などで患者報告数が多くなっている。感染性胃腸炎は現在のところ平年並みの流行曲線となっているが、宮城県、山形県、福島県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、山口県、大分県などで定点当たり報告数が10を超えている。インフルエンザの活動性はまだ低く、全国平均で定点当たり報告数0.14となっている。咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナなど、通常夏季に流行する疾患の定点当たり報告数が例年に比べて多い。流行性角結膜炎は宮崎県で定点当たり5.0と報告が多くなっている。

(Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋)

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報)